

研究実施責任者	プロジェクト名	期間	配分額(円)
看護学部・准教授 木下 真里	災害時意思決定支援モバイル・ツール開発のための基礎調査－被災地における看護有資格者の医療知識／技術情報ニーズについて－	R1-R2	1,956,000
研究概要			
<p>本研究の目的は、自然災害などで被災した看護有資格者が、自身が属する地域の災害救援活動に参加する際に必要な医療知識や技術情報を明らかにすることである。</p> <p>大規模災害時には外部の医療支援が到着するまでに時間がかかり、その都度構成メンバーが変わるなど、中長期的で安定した支援は期待できない。また初見の医療者の診療を受けることに対して不安を感じる被災者も少なくない。</p> <p>看護職はその養成人数から最も身近な医療専門職であり、地域の看護職人材が災害対応に参加できれば、被災地の医療システム全体の負担軽減を図ることができ、地域住民の不安も軽減できると考えられる。しかし現実には長期離職しているために臨床上の意思決定に大きな不安を感じている方が多い。そこで災害現場で容易に参照可能なツールが開発・普及できれば、多くの看護有資格者が自信をもって救援活動に参加できるようになると考える。本研究はツール開発の前段階として、災害現場で看護有資格者が必要とする医療知識や技術情報を明らかにする基礎調査である。</p> <p>看護有資格者の臨床的意思決定を支援するツールの開発提案を想定し、最新のエビデンスに基づく臨床的判断の選択肢を提示するものである。表示された選択肢を参考にすることで、ツール使用者は安心してどのような看護ケアを行うかを決定することができる。災害時にも操作しやすく、常に最新で最適な看護支援手法が提示できるよう、使い慣れたモバイル端末を使用し、例えば患者に画面を見せながら使用すれば、患者の意思を尊重した臨床判断を行うことが可能となる。</p> <p>本研究で得られる知見は、産官学ネットワークづくりの際に関係者間で基礎的情報として共有される。</p>			

研 究 成 果

本研究は、全国の看護有資格者を対象にネット調査を実施して、自然災害などで被災した看護有資格者が、自身が属する地域の災害救援活動に参加する際にどのような医療知識や技術情報を必要とするかについて調査した。さらに、消防庁や内閣府が発表した東日本大震災の人的被害状況報告を網羅的に分析することにより、災害発生後に匿名、悉皆的に安否・健康状態情報を収集するシステム開発の必要性を確認した。

以上の研究成果をもとに、高知工科大学チームとの連携によって、被災地にいる看護有資格者を主な担い手として、匿名・悉皆的に全被災者の人的被害情報を収集、保存、共有する情報ツールの基本デザインを決定した。さらにこの新しい仕組みを Community Oriented Approach for Comprehensive Healthcare in Emergency Situations (COACHES) と名付け、実用化に向けて学会発表、論文発表、講演会等による情報公開を開始した。

成 果 物 等

【学術論文 査読あり原著】

1. M Kinoshita, M Shikida: Measuring Personal Damage in a Large-Scale Disaster : A Review of the Reports Published by the Japanese Fire and Disaster Management Agency on the Great East Japan Earthquake and Tsunami. Disaster Medicine and Public Health Preparedness. (2021) (in press)

【学会発表】

1. C Takada, Y Takeuchi, M Kinoshita, M Shikida. Preliminary Evaluation of Information Sharing in COACHES. S1.4. 5TH IFIP CONFERENCE ON INFORMATION TECHNOLOGY IN DISASTER RISK REDUCTION ITDRR 2020, Sophia (Online) (2020)
2. C Takada, Y Takeuchi, M Kinoshita, M Shikida, Development of a Web Service to Support the Community Oriented Approaches for Comprehensive Healthcare in Emergency Situations. iSAI iSAI-NLP-AIoT2020-0168, Bangkok (Online). (2020)

【講演】

1. 木下 真里. 災害関連死を防ぐ COACHES の提案. 第 21 回学術的交流サロン. (2020)
2. 木下 真里. 災害時に全ての被災者の安否と健康状態を把握し共有する仕組み COACHES (コーチーズ) の提案. シーズ・研究内容紹介第一回. 土佐まるごとビジネスアカデミー専科 (2022)

【冊子】

1. 木下 真里. 災害被害者の状況をスマホで登録 活躍するのは看護師. MANABI Book. p26 (2021)
2. 木下 真里. 看護が目指すべき SDGs のゴールは一つではない. 特集 2. 研究者の視点で語る SDGs. Pin+ Vol. 22. (2021)